

笛吹市の温泉の魅力向上に向けた取組についての
記者発表質疑応答（要約）

■記者

今の市の温泉郷の現状を踏まえて、このタイミングで取り組みをする理由、背景などを教えてください。

■市長

私自身が市長に就任してから「石和温泉はどんな温泉なんだ」ということを、どこかのタイミングできっちり伝えなければと考えていました。

温泉が湧いてから「温泉地」というよりも「歓楽街」のイメージで走ってきました。

残念なことにここの温泉地は、寒い時期にお客さんが来ません。

普通は温泉と聞くと、寒い時期に入りたいから皆さん来ると思いますが、1年の中で一番営業が芳しくない時期です。

この石和温泉というものが、世間の人たちにどう見られているのか。

私が全国市長会で首長さんたちと話をしていると、「石和温泉ですか、消防団の頃よく行きました」と、温泉地ではなく違う意味で有名になっています。

だからそういう意味で、もう一度原点に立って、「この石和温泉はどんな温泉の源泉なんだ」「何に効果があるんだ」と、そこからもう一度やりませんかということはかなり前から旅館組合のみなさんと話をしてきました。

古屋理事長の就任を機に「もう一度足元を見つめ直しましょう」ということで、半年くらい前からロゴマーク・看板の作成、またどんな事業を実施していくか中身も詰めてきました。

そんな中で始まったということですので、景気が悪くなったとか、コロナが明けたからではなくて、その流れが今になったということです。

■記者

確認の意味になりますが、市としては春日居と石和の両方の温泉郷をということですか。

■市長

基本的に市の位置づけは、二つの温泉郷ではなくて、一つの温泉郷と思っています。ただ春日居の方に関しては、「もう少し様子を見ながら参加させてください」ということなので、今回は石和温泉のみのスタートという形になります。

■旅館組合理事長

我々も温泉を見直すということで、まず取り組み始めたのがユニバーサルツーリズムです。

観光庁が掲げる心のバリアフリーに関して、19 施設が心のバリアフリーの認定施設となり、甲州リハビリテーション病院と一緒に体の不自由な方、年配の方々を率先して受け入れる取り組みの次のステップとして、温泉ってどういう効果があって選ばれるか、ユニバーサルだけではなく、温泉質を売っていこうということで、「市と共にやっていくぞ」というお声掛けをいただき、本日を迎えた次第です。

■記者

先ほど市長が答弁の中で、寒い時期にお客が来ないとお話がありましたが、県が公表している「観光入れ込み客数」というものを調べさせていただき、2018 年頃から峡東圏域の石和温泉果実郷周辺が 300 万人を割り込んで、コロナ禍もあり急激に減り、そこから回復をしていますが、直近で去年だと 240 万人ほどで 300 万人を超えていないという観光客の減少が、何か一つの要因として温泉を売り出すことに関連しているのでしょうか。

■市長

当然もう一度コロナ禍前に戻しましょうということですが、来年、再来年にどうにかしていくということではなくて、この石和温泉をこれから 50 年、100 年続けていくために、もう一度基本からやり直そうということです。

今、旅行の形態が変わっています。団体客が来て大宴会して楽しんでもらう形態が石和でしたが、もうそれは通用しません。

これからどういうふうに 50 年、100 年生き延びていくための新しい政策というか方向づけをしていくということです。

先ほど言われた人数は年間の入り込み客数で、月別に見ると 1 月から 3 月までは他の月と比べて本当に観光客が少ないです。

皆さんもこの寒い時期、朝起きたら温泉に入って温まりたいと思うじゃないですか。

その感覚があるのに、なぜ石和温泉はお客が少ないのか。

温泉街ではなく歓楽街として認知されているので、それを変えていきたい、空気を変えていきたいということです。

旅館さんがどういうサービスをしてどういうふうな温泉街を目指していくか、市はグランドデザインや施設整備を行い、背中を押すだけです。本当の温泉街を作り込んでいくのは旅館さんです。

だから今回は行政だけではなくて、官民挙げてやっていかないと勝負にならないということで進めさせていただいています。

まずは 300 万人の復活が目標です。

■記者

整理させていただきますと、一時期は団体客がたくさん来るような状況だったが、旅行の形態が変わって個人客が増えてきた。加えて冬場、特に 1 月から 3 月のデータを見ると、観光客が少ないというところで温泉を PR していこうというのを打ち出した、こういうことが背景にあるという認識でよろしいでしょうか。

■市長

はい。

■記者

冬の時期に観光客が少ない理由をお伺いします。

■旅館組合理事長

笛吹市は、やはりフルーツのイメージが多分強いと思います。

温泉目的というよりも、フルーツの目的で違う時期に来られて、フルーツが無いこの 1 月から 3 月の時期になると、選ばれにくい温泉地という認識でいます。

先ほどお話したユニバーサルツーリズムの親孝行の旅の応援と、美肌を追求する人の温泉地として認知されていくために、まずは「美肌湧泉」という形でキャッチコピーを掲げて、そのキャッチコピーに見合った商品作りをこれからしていこうというところ です。

12 月 1 日から 3 月 15 日までの間、JTB さんとポーラさんにご協力いただいて、温泉の入浴の仕方の冊子と化粧水、ポーラさんのフードコーディネーターから推奨された食べ物、こちらを旅館の方から提供して、温泉から、また食べ物により体の中から美肌

の追求をしていく商品を販売していきます。

このような形でフルーツのない時期でも選ばれる温泉地として、商品作りを続けていきたいと考えています。

■記者

組合の皆さんの中でも、石和温泉のこれまでのイメージというのは、実際のところ歓楽街のイメージが強かったのでしょうか。

■旅館組合理事長

歓楽街のイメージが強かったです。

そういう目的の方もいらっしゃると思いますし、それを受け入れる施設もあると思います。

ただ、それ一つだけが正解ではなくて、親孝行、美肌、様々な選択肢のある温泉地、また様々な世代、男女ともに選ばれる温泉地でありたいと考えております。

■記者

今後イメージを変えていこうという話ですね。わかりました。

市としてハード面で物を造るなど、イメージアップのためにバックアップしていくようなことを考えていますか。

■市長

当然、先ほど話したように全く知らん顔して、旅館組合だけに任せるつもりは全くありません。まずはイルミネーション、次にウッドデッキが古くなってきましたので、イメージ変えるためにウッドデッキの改修、また足湯ひろばを今後どのようにしていくかを考えています。

みんなの広場が非常に良い雰囲気が出てきましたので、その辺を合わせて一体的な整備を考えています。

温泉街は歩くところも重要だと思います。

ご飯食べた後、どこか歩いてカラオケしても良いですし、2次会などで飲んでも良いですし、遊戯の射撃場などもあったり、温泉街らしい温泉街を作っていくことを考えています。

昔、私が子供の頃は、飲み屋街は肩がぶつかるぐらい人が歩いていました

ホテルだけでは無理だと思うので、やはり温泉街というみんなが思う地域を作ってい

かなければ厳しいと思っていますので、それは我々がこれからしっかり考えていきます。

まずはイルミネーション、ウッドデッキの改修、足湯、また飲み屋街の空き店舗を埋めていくことも考えていきたいと思っています。

■記者

元々の歓楽街というイメージはかなり根強く残っていると思っており、完全に払拭するものなのか、まだ残していくものなのかというところと、かなりそのイメージが強いのかなと思いますが、それをより上回るだけの今後のビジョンを教えてくださいますか。

■市長

その部分は石和の文化だと思っているので、消すつもりは全くありません。

それはそれで楽しみで来る人たちもいるので、そこはしっかり押さえておきながら、新しいいわゆる家族の方々、個人の方々、団体ではない方々が楽しんでいただけるものを提供します。

今回のこの取り組みのターゲットは女性です。

1週間くらい来ていただいて、しっかり綺麗になって帰っていただきたいです。

そんなイメージでいますので、何でもかんでもお客さんに来てもらいたいから総花的に実施するということではなく、先ほども話したように、形態が変わっていることを前提に置きながら、女性にまずは来ていただけたらありがたいなと。

そのために今後様々なことに取り組んでいきたいと考えています。

■旅館組合理事長

今現在も女性の個人客のお客様は増えてきています。

それに応えるべく、しっかりとこの pH9.0 以上という部分をお伝えして、効果があるということの中で、選ばれるということを選択肢としていただきたい。

ポーラさんの温泉の分析によると、場所によっては温泉質が違うということもあるので、先ほど市長も言われましたけど、色々な温泉、お宿を巡っていただこうと、温泉巡りの手形も今後考えて実施する予定でいますので、より温泉を前に前にというふうに考えております。

■記者

石和温泉街は長年の歴史があると思いますが、こういったキャッチコピーを設けるのは初めてになるのでしょうか。

■旅館組合理事長

私、生まれも育ちも石和ですが初めてだと思います。

■記者

このキャッチコピーは、組合の中で決めたという理解でよろしいですか。

■旅館組合理事長

色々な人のご意見いただきながら、また専門の方のアドバイスをいただきながら決めました。

■記者

このキャッチコピーに決まるまで、どのくらいの期間がかかりましたか。

■旅館組合理事長

半年かかりました。

■観光商工課長

20、30 案あり、その中から絞って最終的にこの形になりました。

■記者

明日のキャラバンを皮切りに、このキャッチコピーを始めるという理解でよろしいですか。

■旅館組合理事長

そのとおりです。

■記者

このキャッチコピーを今後どのように活用していくのか、具体的に教えていただきたいと思います。

■旅館組合理事長

まずは明日のキャラバンで市の職員の皆さん、旅館組合のメンバーと一緒に、このＴシャツを着ながらキャラバンをしていくことが一歩目です。

12月1日からJTBさん、ポーラさんとのご協力の中で美肌湧泉を表現した商品の販売。次に湯巡りです。まずそこから始めていく中で、またご意見いただきながら商品作り、毎年11月26日に何かしらのイベント、商品の発表をしていきたいと考えています。

■記者

先ほどおっしゃっていた商品に関連して、美肌湧泉に関わる商品の販売とありますが、利用できる温泉施設・温泉宿というのは、何施設でその商品を販売するのか、商品とおっしゃっていますけど、いわゆる宿泊プランというような認識でいいのかを伺います。

■旅館組合理事長

おっしゃるとおり、宿泊プランにポーラさんの化粧水とフードコーディネーターが推奨していただいたメニューの販売という形で、JTBさんの方から石和の中で今年は9社のご協力をいただき販売を始めます。

食事が付いている施設が4社、付けていないのが5社となっております。

■記者

ありがとうございます。

具体的にはポーラさんの化粧水を使えるということですね。

■旅館組合理事長

化粧水とドリンクも付いているみたいです。

私たちもまだ手元にないため詳しいことは言えないですけど、ポーラさんが推奨する化粧水とドリンク、フードがあります。

■記者

この取り扱いを石和温泉郷にある9社で提供が始まるということですね。

■観光商工課長

今の全体的な話の中で、温泉というものをもう一度見返すというか、もう一度原点に立ち返ろうというところが一番の元となっています。

先ほどの9社の旅館さんが商品を販売していくという話ですが、今後は一般社団法人全国旅行業協会を通じまして、個人だけではなくて知名度をどんどん広げていこうということで、団体客に向けてもそういった商品を造成して、4月以降に販売していく予定となっております。

また詳しい情報ありましたら、皆さんにお知らせしたいと考えております。

■市長

私が言いたいのは、この美肌湧泉の看板だけではなくて、この看板に対して中身がないと勝負にならないので、旅館組合と市で今後しっかり取り組んでいこうということです。よく温泉街に行けば、このようなTシャツや色々なグッズが販売されていますよね。そういうものをこれから研究していかなければ駄目だと思います。

ここの温泉地は温泉饅頭也没有せん。温泉地であれば温泉饅頭があり、湯巡りがあり、Tシャツや色々グッズが売っています。そういうところからしっかり取り組んでいくことを狙っています。

以上